

欧州馬術レポート

週刊 Gallop 2020 年 1 月号掲載

馬耳蘭風 —オランダ奮闘記—

佐々紫苑

Shion Sassa



明松寺馬事公苑所属

◆佐々紫苑

(さっさ・しおん)

1995年東京都生まれ。早稲田大学卒。2012年全日本ジュニアライダー総合馬術選手権優勝。15、16年全日本ヤングライダー総合馬術選手権連覇。大学では4年連続で学業優秀賞を受賞。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

りあえず大丈夫、という話は選手同士でよくしていますが、すべて盗まれてしまった選手もいて、警察が駆けつける大騒動に発展。幸い私は鞍だけは車に積んでいましたが、QUANDOに合わせて調節してあるハミを付けた頭絡がないと試合には出られません。

途方に暮れていると、隣のベルギーの選手とグルームさんが、「大丈夫、元気を出して。あなたの使いたい頭絡はどれ?」と大量の頭絡とハミを見せてくれました。プロの選手は多数の馬に乗るので、毎回それぞれの馬のコンディションに合わせて選べるように複数の馬具を持ち歩いています。ありがたくお借りして、いつもと違うハミから感じる違和感を少しでも減らせるように直前まで調整して無事出場、7位に入賞できました。イソップ童話の金の斧ならぬ頭絡が目の前にズラッと並べられたときは、2人が女神のように見えました(笑)。もちろん試合後にはピカピカに磨き、ワッフルを添えてお返ししました。国境を越えた馬仲間、に助けてもらったことに感謝! 何より馬たちに被害がなかったことが不幸中の幸いでした。



日本国旗と名前入りの大切なムクチも盗まれてしまいました(本人提供)

Let's enjoy Dressage

高田茉莉亜

Maria Takada



アイリッシュアラン乗馬学校所属

◆高田茉莉亜

(たかだ・まりあ)

1994年東京都生まれ。慶應義塾大学卒。2010、11年に全日本ジュニアライダー馬場馬術選手権連覇。16年の全日本ヤングライダー馬場馬術選手権で史上初の4連覇を達成した。17年より日本馬術連盟アンバサダーライダー。

突然ですが、皆さんは最近、全力疾走やダンスをした経験はありますか?

私たちが全力疾走やダンスをするには、十分にストレッチやウォーミングアップをする必要がありますよね。また、より速く走ったり、より上手に踊るためには練習も必要。それは馬も全く同じです。

馬の全力疾走を「競馬」、馬のダンスを「馬場馬術」と置き換えるとすれば、競馬の場合、レース前のパドック

での常歩や返し馬は、ファンの方々が馬券検討するための馬見せであると同時に、馬のウォーミングアップの役割を果たしていると思います。一方、馬場馬術の場合は、競技前に30~50分ほどウォーミングアップしますが、内容は人馬それぞれ。馬体を温めながら、その競技で使うステップや技を馬とともに確認しながら行います。ドイツに来て学んだのは、ウォーミングアップで「馬に自信を持たせる」ということ。成功しても失敗しても、常にポジティブな乗り方を私は心がけています。

レースや競技で最高のパフォーマンスを発揮するための練習も重要です。ただ、当然ながら馬が勝手に練習しておいてくれるわけではないので、私たちライダーが乗ってトレーニングを課します。大切なのは、やはり日々の積み重ねですね。「練習は不可能を可能にする」をモットーに今日も奮闘しています!



普段の練習や競技前のウォーミングアップは、ドイツ人トレーナーに指導をしてもらっています。競技直前のトレーナーからの声掛けが何よりも励みになります!

(本人提供)